

開設10周年を迎えて

本紀要も、今号が第10号記念号となりました。南山大学人間関係研究センターとして南山短期大学より引き継ぎ、開設して丸10年を過ぎました。本センターの研究及び研修等の活動は、「ラボラトリー方式の体験学習」が核となっています。この10年間、研究員の方々の日々の努力によって、実践的な研究や公開講座をはじめとする地域社会への貢献を着実にやってきています。その活動の背景には、南山のモットーである「人間の尊厳のために」をもとに、人間関係のプロセスを見つめること、そしてそのプロセスから学ぶことをいかに実現するかをめざしているといってもいいでしょう。このことは、民主的な風土づくりをめざした社会変革のワークショップの中から、ラボラトリー方式の体験学習が誕生したことにさかのぼることができます。私たちの活動は、個人の成長から組織風土の変革に至るまでひろく研究することとその実現をめざしています。

2010年秋、10周年記念事業として、体験学習の将来を多くの皆様方と語り合う対話の場のワークショップを開催することができました。そこでは、ワールド・カフェやOST（Open Space Technology）といったホールシステムアプローチによる多様な人々の対話の場を創り出すことに挑戦しました。その場に参加してくださった方一人ひとりから社会変革に向けての新しいエネルギーが生まれ出る体験になったり、参加者相互に繋がり合う体験の場になったりしたようです。そのエネルギーが変革の種となり、これから本センターを基地として、多くの人々と新たなかかわりが生まれ、その種が成長し花開くことを願っています。

本号では、10周年記念事業のファシリテーターとして対話の場づくりに挑戦してくださった西村勇也氏が10周年記念事業のプログラムを紹介しながら新しいコミュニティづくり、ソーシャルイノベーション（社会変革）への実践的なホールシステムアプローチの手法に関する紹介記事を投稿してくださいました。特集のテーマでもある「未来」に向けて、ソーシャルイノベーションの大切な視座を提供してくれています。また、研究員にも「未来」をテーマにそれぞれの考えるこれからの実践研究の方向性に関する記事を投稿してもらいました。研究員それぞれが自らの「未来」に向かい研究が実践されることと、本センターでの活動を通してそれぞれの「未来」が紬合いながら、次の10年に向けてますます本センターの活動が発展していくことを願っている次第であります。

南山大学人間関係研究センター長 津村俊充

